

藤 沢

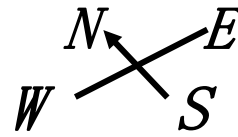
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2023年12月1日

第356号

主
な
記
事

- ・ふじさわ環境フェア 2023
- ・福島からあなたへ武藤類子さんのお話
- ・PFAS とはどんな物質なのかⅡ
- ・カタリン・カリコ氏ノーベル賞

<http://econet2015.sakura.ne.jp>事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / FAX 0466-87-4922

このイカレタ世界で

イスラエルはパレスチナ市民の虐殺を止める気配もない。イスラエル軍の空爆、砲撃、電気、水、食料、燃料の遮断によって、既にガザで1万数千人の市民が殺戮されている。その6割が女性と子どもたちだ。そして病院、国連施設を攻撃占領して病院職員、避難者を拘束している。

イスラエル軍はガザ北部を攻撃するから南部に避難しろと、一方的に通告しておきながら南部の都市、難民キャンプを空爆し、北部と同様に南部も制圧すると発表した。更にガザだけではない。ヨルダン川西岸でも難民キャンプが空爆され、武装した入植者と軍によって、パレスチナ人の農地、家屋が破壊され奪われ、容赦なく射殺されている。10月7日以来、死者は200人を超えたということである。ネタニヤフ首相はハマスとの戦闘が終わっても、軍はガザを占領し続けると公言している。ハマスを殲滅すると始めた戦闘の筈であったが、全パレスチナ人を殲滅しその土地を占領し併合するという目的を露わにした。

ロシアがウクライナを攻撃したときは全世界が直ちに、国際法違反としてロシアへの制裁を発動した。今回は「イスラエルには自衛権がある。」として、アメリカ、EUなどはイスラエルを擁護するばかりだ。

人道法に違反するジェノサイドは明らかなのに、二重基準の典型である。国連はジェノサイドを止めることが出来ない。イスラエルは安保理事会の停戦決議など無視するだけである。目の前で日々パレスチナの人々が殺戮されていくのを誰も止めることができない。

これが私たちの生きる世界なのだ。私たちはイカレタ世界に暮らしている。このイカレタ世界に NO と言いつける、諦めずに。

- ・毎週の「Stop Gaza Genocide」の行動
- ・12/8(金)「不戦の誓い平和行動」
12時～13時サンパール広場
- ・12/9(土)孫崎享さん講演「平和を創る道の探求」
13:30～15:30 藤沢市民会館第一展示ホール

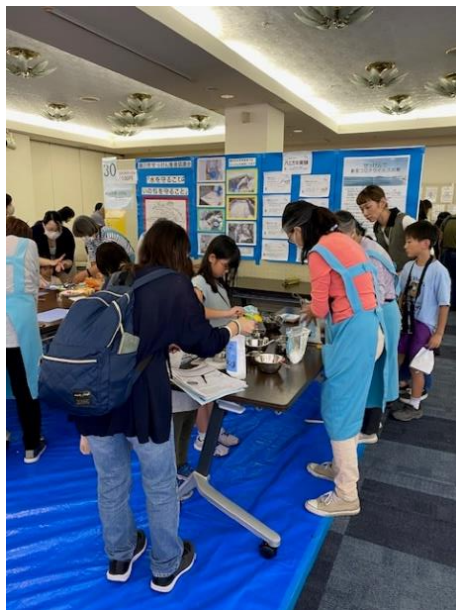
(ふじさわ九条の会 吉塚晴夫)



ミカン (中井町の農園で)

ふじさわ環境フェア、その先の世界

11月なのに半袖で過ごしたふじさわ環境フェアが無事に終了した。今年コロナ禍前とほぼ同じ内容で、市民の方々に今の環境を維持する想いを伝えられたはず。会場である市民会館はそろそろその使命を終える日が近付き、市民会館での環境フェアはこれで最後かも、と少々の哀愁を感じながらであったが、それよりも今の便利な割りりと安全な社会がいつまで続けられるのか、もう心配を通り越して絶望である。とはいえ日々は巡るのだが。



賑やかなワークショップのブース



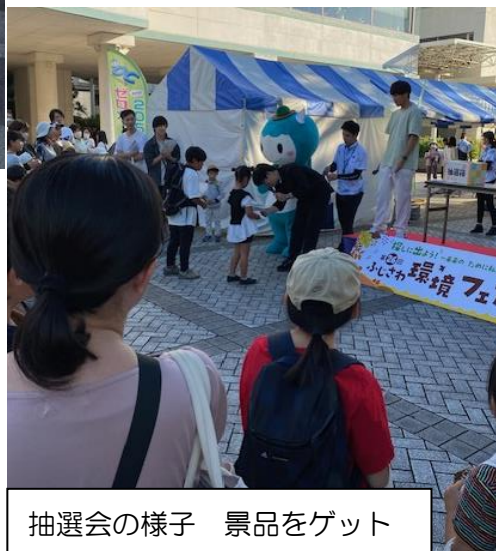
藤沢エコネットの展示

環境フェアの最後、実行委員長として閉会の挨拶に立った際、特に気候変動は年老いた親の介護に似ていると話した。急激に進行する気候変動は地球温暖化を通り越し地球沸騰化まで来た、アルツハイマー型認知症を患う親の介護も急激に進行して、昨日までは出来ていた事が出来なくなり、その対応に慌てふためいた子が慣れた頃に、また他の事が出来なくなる。とにかく日々の変化に追いつかない毎日だが、これは適応が間に合わない気候変動によく似ている。加えて介護をしていない家庭には特になんの影響もない。親が要介護にならなければ何も関係がない。そう、他人事である。これも気候変動に似ていると言える。

隣国に攻め込まれる、紛争が起きる、命が脅かされれば当然、必死である。そこまででなくとも、大雨による水害、高温による一次産業への悪影響、それらが身近に起きないと、いまだに多くの人にとって他人事なのが、気候変動。

絶望から目を背けたい気持ちはわからないでもないが、子孫を残す立場ならそれで良い訳では無い。文明が崩壊するような気候変動が目の前に迫っている事を再認識し、生活を一変する毎日を送る瞬間が、皆に訪れるように背中を押していきたい。

(青木正美)



抽選会の様子 景品をゲット



クイズ王に挑戦の参加者

「福島からあなたへ」 ～武藤類子さん講演会を聞いて～

11月11日カトリック藤沢教会で講演された武藤類子さんのお話は、原発事故後の問題山積を象徴するように多岐にわたりました。当日のお話の前半部分をお伝えします。

事故から12年以上経過しているのに、原子力緊急事態宣言は解除されてはならず、把握されている避難者は約3万人。

そんな中で今年5月GX推進法とGX脱炭素電源法（束ね法案）が成立した。この2つの法律は電源として原子力発電を使うことを意図している。束ね法案では、5つの法律の改正案がいっぺんに出され、しっかりと審議されないままだった。5つのうち4つが原発に関する法律。原則40年という原発の寿命は60年まで延長され、場合によっては60年以上も運転可能となった。原発事故の反省と教訓はどこへ行ったのか。未来に対する暴力と無責任であり、廃案にしたい。

多核種除去設備（ALPS）ではすべての放射性物質は取り除けない。処理した水は、トリチウムだけでなく、そのほかに64核種が含まれていることがわかっている。

東電は、2015年、福島県漁連からの要請に対して、「関係者の理解なしには、いかなる処分も行わず、多核種除去設備で処理した水は発電所施設内のタンクに貯留いたします」と回答している。それにもかかわらず、漁業者との約束を破り、国内外の多くの反対を押し切って、放出が始まった。

他国の原発からもトリチウム汚染水は流れているという人がいるが、原発事故で生じた汚染水を放出するのは世界初。いくら薄めても、最終的に海に流される量は変わらない。（ベータ線ではなく）ガンマ線の測定を示すなど、騙すようなやり方で安全を宣伝している。「風評被害」という言葉や「風評加害」という言葉が使われているが、風評とは根拠のない噂のこと。福島原発事故では、現実に放射能がばらまかれている。風評被害ではなく、「実害」。

34億円の試算で始まった海洋放出工事には430億円がかかり、風評被害対策という「実害」隠し対策には300億円と500億円の基金が作られた。この中には広告代理店の広報事業などが含まれる。また全国の8校を復興庁の幹部が訪れ、安全だという授業が行われている。

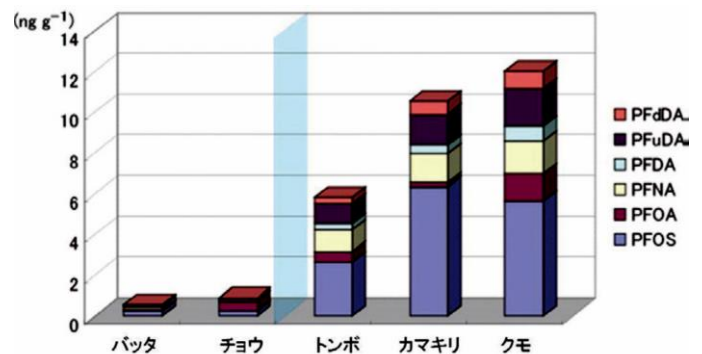
この他にも、甲状腺がん、汚染土、復興の実態など、お話は続きました。
(すどうゆりこ)

PFAS とはどんな物質なのか Ⅱ



10月号ではPFOSとPFOAについて特にその性状が、POPs（残留性有機化学物質）に該当することから原則、製造・輸入が禁止されていること紹介しました。現在は製造も輸入

も規制されており、これ以上の汚染の拡大はないはずですが、すでに汚染は進んでいました。日本のある研究者は2000年には、「肉食性の昆虫や昆虫を捕食するクモやトカゲにPFOSなどの有機フッ素系界面活性剤が比較的高いレベルで蓄積している」と述べ、排出源のない地点でもPFAS類の汚染が進んでいたことが分かります（下図参照）。



(国立環境研究所・環境義 No.48 より)

その後の展開はもっと深刻でした。確かに環2009年以降の汚染源の影響を受けない地点でのPFOS測定結果は、減少傾向です（図：単位はpg/Lですので、最高でも0.7ng/L程）。

ところが2021年の全国的な調査では、暫定的な指針値（PFOSとPFOA合計で50ng/L）を超え

る地点が都市部に集中していました。身近では、引地川の次の2地点が超えていました（調査年により数値の変動はあり、もっと高い地点もありました）。

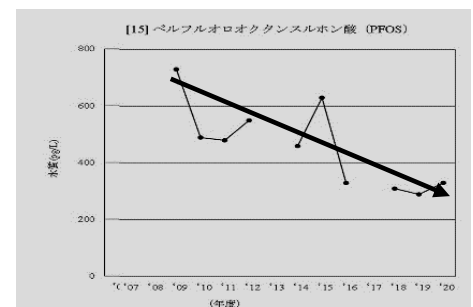
大和市福田橋 引地川 340 ng/L

藤沢市富士見橋 引地川 170 ng/L

汚染は、まだ続いているのです。当然、どこかに大きな汚染源があるはず。早急に説明が待たれます。

次回は、PFASの健康影響について紹介します。

(菅谷芳雄)



カタリン・カリコ氏のノーベル賞

ことしのノーベル生理学・医学賞の受賞者は、新型コロナウイルスのワクチンの開発で大きな貢献をしたカタリン・カリコ氏とドリユー・ワイスマン氏ら2人が選ばれました。

カリコ氏は、人工的に合成した遺伝物質のメッセンジャーRNA (mRNA) をワクチンとして使うための基礎となる方法を開発し、2019年末から広がった新型コロナのパンデミックでは記録的速度でワクチンの開発に成功しました。

カリコ氏らは mRNA を構成する物質を別の物質に置き換えることで炎症反応が抑えられることを発見し2005年に発表しました。さらに、置き換えられた mRNA を使うと、目的とするたんぱく質が劇的に効率よく作られることを発見、医薬品として扱うことができるようになりました。

カリコ氏は、ハンガリー出身、そこでは研究が続けられず渡米したが、米ペンシルベニア大学での研究も非正規雇用の不安定な立場。研究費の不足や昇格差別など幾多の困難に挫折せず研究を続けて、家族に支えられながらの生活で今回のノーベル賞受賞に至りました。

受賞での言葉は印象的です「多くの若い人たちは、友人や同僚がどんどん昇進していくのを見てあきらめてしまいます。しかし自分に何ができるのかを探すのにエネルギーや時間を費やすべきなのです」と、科学者たちを鼓舞することばを述べたことには感動します。

コロナ後遺症に苦しむ人も多くあるようですが、世界中のたくさんの命を救ったことは間違いなくノーベル賞に値するもの、今後もあきらめずに研究を続ける科学者たちの活躍に拍手を送りたいと思います。

そして日本政府も、軍事研究などへの補助を止め、基礎的な研究費を大幅に補助し、科学者の研究や育成を計るべきだと思います。(荒井)



ECONET INFORMATION

▲ふじさわ・不戦の誓い 平和行動

12月8日(金)12:00-13:00

藤沢駅北口サンパル広場(雨天時は南口)

市民 議員 どこでもアクション!の仲間たち

藤沢合唱団 月桃の花歌舞団ほか

主催 ふじさわ不戦の誓い実行委員会平和行動

▲平和を創る道の探求

ウクライナ戦争と台湾での緊張を超えて



講師 孫崎享さん

12月9日(土)13:30- 市民会館第一展示ホール

参加費 1000円 15-18歳 500円

主催/ふじさわ九条の会 090-9239-0864

▲ゼロカーボン講演会「脱炭素社会の実現」ほか

竹内昌義氏(エネルギーまちづくり社)

12月16日(土)10:00~

会場 Fブレイス 申込み不要

主催/藤沢市環境総務課



▲ヒロシマから未来へ・つなぐ言葉

朗読劇 埴下雅美さん

12月23日(土) ①10:30- ②14:00-

場所 エコストアパパラギ2階 ¥1100円

主催/申込み 0466-50-0117 主催/npo 気候

危機対策ネットワーク ・後援/藤沢市ほか

▲藤沢エコネットから

◆市長選挙が2月18日に行われます。本紙で公開質問をするため、環境問題でどのような質がよいかのご意見をお寄せください。

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

◆事務局会議 12月2日(土)10:00~

六会公民館

《編集後記》例年より暖かい師走。ドバイでCOP28が開かれ、グレテス国連事務総長は1.5℃以内に抑えるには時間を区切った化石燃料の全廃が必要と表明。一方米国や日本等約20の有志国が、原発を'50年までに3倍に増やす宣言をまとめたという！誤った対策だと環境団体は批判。今年はウクライナ戦争が続く中、パレスチナとイスラエルの間で戦闘が起き一般市民が最大の犠牲。平和へと日本が貢献する場は夢か。(A)